



あいさつ

さいたま市立原山小学校  
校長 高村 達夫

本校は、平成26、27年度の2年間、さいたま市教育委員会の委嘱を受け「我が国の伝統や文化を尊重する教育」の研究指定校として、主題を「豊かに考え、生き生きと学ぶ児童の育成」、副題を「伝統や文化に親しみながら」とし研究に取り組んでまいりました。

この2年間にわたり、常に問い直してきたことは、「日本とは」「日本人とは」「我が国の伝統とは」「我が国の文化とは」、そして、「その教育を具現化するための場と方法はどうか」という基本的な研究のテーマに基づくものでありました。しかし、そこから、本校は研究の方向性を定め、1年目は国語科を、2年目には道徳を加え、さらに、特別支援学級では生活単元学習「お米づくり」をテーマに授業づくりに取り組みました。また、我が国、我が郷土の伝統や文化を実際に見たり聞いたり、直接体験できる場「きらめき☆ジャパネスク」を位置付けるなど、日本のよさを感じ取れる学習環境づくりにも努めてまいりました。そして、今、子どもたちは、日本の伝統や文化のよさや豊かさに気づき、自国や郷土の伝統や文化に対して愛着がはぐくまれつつあります。

現在、ますますグローバル化が進展する社会の中で 国際社会で活躍する日本人の育成が求められています。そのためには、異文化を理解し大切にしようとする心が必要です。また、その心は我が国や郷土を愛し、自国の伝統や文化を深く理解しようとする態度から生まれるものであり、自分という軸をしっかりとっていないければなりません。学校教育はその軸がもてるように教育を推進することが必要となります。

本研究がこの軸づくりに対し、どこまで迫れたかについては、まだまだ多くの課題があることは事実です。しかし、本研究を通し、子どもたちが授業から、そして、様々な体験等から感じ取った「日本のよさ」「日本の伝統や文化のすばらしさ」「郷土への新たな愛着」などこれまであまり意識しなかった視点をもって伝統や文化の価値にふれ、心動かされた時があったと確信しています。また、今年度の夏休みの自由課題として「感じた！日本のよさ」というテーマを子どもたちになげかけたところ、120名の子どもたちから夏休みに感じ取ったことをまとめた作品（写真、作文、絵など）が集まりました。そこには、お盆に、きゅうりとなすで作る馬と牛から先祖を大切にする日本人の心を日本のよさと感じ取った子どもが多くいました。また、お囃子や神輿を体験し、心躍る自分がいたことから未来に生きる人にも伝えていきたいという目標をもった子、すばらしい伝統や文化を伝え残すためにも世界がいつまでも平和でありますように考えた子など、それぞれの子どもが感じ取ったものは、私たちが求めてきたそのものであり、豊かな心や未来を切り拓く力の育ちをみることができたように思いました。

本校は本年度創立60周年を迎え、その記念事業の合言葉を「感謝 あふれる笑顔 ふるさと原山小」とし、この言葉の意味を感じ取れる活動を家庭、地域と連携し進めています。そして、この期に伝統や文化を尊重する教育を推進したことで、ともに先人を想い伝統や歴史、地域を大切にする心、感謝の心をもつことができるようになるなど意義ある研究となりました。さらに、グローバル・スタディ科のスタートに対しても価値ある研究になったと考えております。

本研究で得た成果と課題を今後の教育に生かすため、教育課程を見直すとともに、家庭や地域とさらに連携し、伝統や文化を継承している方々の心にたくさんふれられる教育を推進してまいります。

結びに、本研究推進にあたり、温かく、そして的確にご指導を賜りました、さいたま市教育委員会の先生方をはじめ、ご協力とご支援をいただきました関係機関、保護者、原山お囃子会、原山神輿会をはじめとする原山祭り保存会の皆様、そして、自治会をはじめとする地域の皆様方に心から感謝を申し上げます、あいさつといたします。